

平成 2 5 年度 海老名市有馬中学校  
家庭教育学級実施報告書

2 0 1 3 年 1 1 月 2 6 日

海老名災害ボランティアネットワーク

## 1 実施日及び実施場所

日 時：平成25年11月26日(火) 10時00分～11時45分  
場 所：海老名市有馬中学校1階図書室

## 2 参加者

有馬中学校保護者及び地域自治会役員等：約30名

## 3 講演内容

地域のきずな、家庭のきずな ～自分ができること～

## 4 講演者

海老名市社会福祉協議会 中島、岩澤  
海老名災害ボランティアネットワーク 江間

## 5 講演概要

### 【はじめに】

#### ○ 社会福祉協議会について

社会福祉協議会とはどのような団体か、社協が行っている様々な事業活動について及び社協のミッションとして「地域福祉の推進」を行っている、ことなどを社協の中島さんが話した。

#### ○ 災害ボランティアネットワークについて

ボランティア活動について、ボランティアと地域とのトラブルについて、トラブル解消のためにボランティアセンターを設立した、センターも地域住民が設立すべきこと、海老名災ボラの設立について、海老名災ボラの活動について、海老名災ボラの目指すこと等を江間がはなした。

### 【取り組み】

#### ○ 東日本大震災での取り組み

震災後、海老名社協が実施したこととして、緊急小口資金貸し付けやボランティア活動保険の加入手続きを行ったこと、海老名市災害救援ボランティアセンターを設置したこと、社協職員を災害地ボランティアセンターに派遣したこと、災害ボランティアバスパックを行ったことを社協の岩澤さんが話した。

社協職員の派遣については、岩手県釜石市災害救援ボランティアセンターでの職員支援報告で、センターでの活動内容を写真で説明した。

災害ボランティアバスパックについても、写真で活動状況を説明した。

○ 発災時の社協の取り組み ～地域との協力～

発災直後は皆被災者であること、要援護者名簿は発災時には活用できないこと、地域にしか本当の要援護者はわからないこと、行政の力はあてに出来ないこと、災害は様々あること、災害弱者、避難場所、被災者ニーズなどは様々あること、を社協の中島さんが話した。

発災時の社協の取り組みとして、ボランティアセンターを設立し救援すること、ボランティアの活動は様々あることを話した。

○ 平常時からの地域への社協の取り組み

市・社協・災ボラとの定例会の実施、小地域福祉活動の支援、地域の防災・減災・ボランティア活動の基盤整備、ボランティアセンター開設訓練、他市町村社協との連携、災害と社協の関係について社協の中島さんが話した。

他市町村の取り組み事例や、地域住民の協力が不可欠で日常のつながりが災害に強い町づくりにつながることを話した。

【みんなで考えるワークショップ】

○ 目黒巻

目黒巻について簡単に説明し、発災後5分間の行動を各自に記入してもらった。普通の日、午前10時に地震が発生、揺れは1分以内とした。

記入時間10分間とした。

記入後、無作為に選定した2名の方に、記入内容を発表してもらった。1名の方は、勤めており、機械を止めて、所定の場所に避難し、指示を仰ぐとのこと、もう1名の方は、ヨガを行っており、情報を収集するとのことであった。

ここで、5分間にすべきことを配布し、発災後、自分が元気ならば、必ず側の居る方に声をかけて欲しいこと、ご近所の方に声をかけて欲しいことを話した。

この目黒巻は、他にも色々な使い方があることを話し、将来がハッピーエンドになるようにイメージして欲しいと、江間が話した。

最後に配布したチェックリストを活用して欲しいことを付け加えて終了した。

6 考察

社会福祉協議会は、一般的に福祉に係わる活動を行っているだけと考えられており、災害に係わる活動を行っていることはあまり理解されていない。

今回の講演で、社協と災害の関係が簡単明瞭に理解されたのではないかと。非常に良い講演であったと思う。自治会役員や一般市民を対象にした講演会開催もあり得る講演であったと思う。

目黒巻については、一般市民を対象として行ったのは初めてである。皆的確に記入しており、抜けてしまうのが、隣近所への声かけだけのようで、この辺を注意して実施できればよいのではないかと。今後、機会を作って実施して行きたい活動であると思う。